**他の道場への出稽古、自主稽古などについて**

通常、武道を習う場合、自分が所属する道場は一つに限定されるものです。 しかし、同じ地域であっても違う道場の稽古に参加させていただく、あるいは別の地域の道場へ遠征をするケースもあります。これを通称「出稽古」と言います。個々の道場や流派や会派、地域によって稽古や作法が異なり、良くも悪くも、色々な学びや気付きを得る機会となり得ますが、一定のルール、暗黙の了解、作法があります。

出稽古を行うためには、まずはその参加したい先方の道場の関係者に対してアポイントと許可を取ることが必要です。通常、遠征稽古の場合は大きく二つの参加タイプがあります。一つは協会・連盟が主催する稽古、もう一つは随時、他の道場や一般の方からの参加を受け付けているという、比較的パブリックな稽古に出稽古として参加するタイプです。

主に地域を統括する協会・連盟がその主催となって行っているもの（パブリックな稽古）については、現在所属している道場から案内があれば、既に「この道場からはその稽古に出稽古しても良い」ということになりますので、特段の許可などは必要ありませんが、道場主には参加する旨を伝え、事後の報告もすべきでしょう。

道場が個別に行っているようなクロースドな稽古への参加（出稽古というよりはゲスト参加）については、パブリックな連盟など主催の稽古とは異なり、道場に対して所属している人間が、会費などを払って稽古をつけてもらっていることがほとんどです。いきなりアポイントも取らずに参加していく訳にはいきません。必ず現在所属している道場の事務局を通して、相手方の道場の事務局、指導者の先生にお伺いを立て、「この日の稽古に参加しても良い」という許可をいただくことが礼儀として必要です。そもそもこの許可がなければ完全なる門外漢ですから、仮に道場に入ることができたとしても、稽古に参加できるかどうかは保証されません。必ず、上記の手続きを踏んで、相手方の道場にお邪魔して稽古をさせていただくことについて許可を頂くようにしましょう。

パブリックな稽古であれクローズドの稽古であれ、出稽古に際して注意すべきことが他にもあります。

まず最も重要なのは、常に礼儀正しく、謙虚に行動する事です。自分の態度や振る舞いが悪ければ、二度と受け入れて頂けなくなるばかりか、自分の道場の関係者に対する印象も損ないます。自分は道場の代表として見られている事を忘れないようにしましょう。

他に注意すべき点としては「それぞれの道場や組織における固有なルール」についてです。自分の所属する道場では、こういう場合にはこうすることが正しくとも、他の道場が同じとは限りません。「郷に入れば郷に従う」と言われるように、その環境や慣習に合わせた行動をするように心掛けましょう。

　それともう一つ、あくまでも自分のところの道場で稽古をするのが「主」であって、他所の道場で稽古させて頂くのは「従」でなくてはならないということです。逆転すると、所属道場の先生に対して失礼に当たるのはもちろん、出稽古先の道場に対しても失礼なことです。出稽古をする者が先方の道場に合わせて稽古するのは当然ですが、受け入れた方はどうしても気を使います。指導者側からすれば出稽古に来た者に怪我をさせてはいけないと思い他の道場生よりも意識を向けざるを得ません。正規な会員として会費を払って習いに来ている道場生よりも、出稽古に来ている人の方へ指導者の注意が向けられているというのは、決して良い状態でないからです。

　色々な手順を踏み、一々許可を得ることが面倒だからと、無断でやってはいけません。例え先方が「いつでも気軽にお出で」とか、「一々伺いを立てなくてもいいよ」などと言われたとしてもです。万が一何かトラブルが発生した場合、自分ひとりの問題で済まない場合もあるからです。今の時代、当事者だけでなく、関係者はもちろん、業界全体に影響することを常に考えなければなりません。

　出稽古ではなく、道場の指導者も関わらない、いわゆる「自主練習」や「私的稽古」についても注意すべき点があります。

自宅外で行う場合は、常に他者を意識し、誠実な態度や行動を心掛けることが大切です。他者に迷惑をかけず、この場合にも「自分は道場の代表」あるいは「空手道関係者の代表」として見られている事を忘れないようにしましょう。

　所属道場の仲間あるいは他の道場生と稽古をしたい場合も出稽古と同様で、所属道場の先生に許可を得られなければ行うべきではありません。稽古が不足しているから増やしたいということならば、本来、その旨を伝え、特別稽古や定期稽古を増やして欲しいと熱意を伝えるべきです。一時的でなく、本気度が高ければ、指導者はそれを汲んでくれる筈です。生徒である間は、その指導者の元で稽古をするのが筋です。自分たちで勝手にやりたいということならば、そもそも道場に所属する意味がありません。

　以上を通じて、もしも自分に合った道場や指導者を他に見つけたのなら、正式な手続きを以って正々堂々と移籍をすれば良いと思います。空手道に限らず他の習い事にしても、一つの環境が全ての需要を叶えられるはずがありません。全ての生徒に最適なはずがありません。他の道場に光を見出したのなら、堂々とそれを道場へ申し出て頂ければと思います。こっそり他に通ったり、自主稽古で誤った方向に進むより遥かに良いです。

　「空手道は礼に始まり礼に終わる」と言います。修行者の皆さんには、試合や稽古の時だけではなく、日常生活において、そして自分の進路を考える際や決定する際にも活かして欲しいと思います。自分は、社会の中で生きいている、生かされている。節度をわきまえて生きることは一見窮屈な様でもその身を助けることになる。節度ある行動や生き方が人として美しく輝くことにつながり、空手道の心技体はまさしく節度の反映であること。それらを忘れずにいて頂きたいと思います。

　出稽古や自主稽古も、取り組み方次第で良くも悪くもなります。また、それ以上に大切なのは、定期的な所属道場で指導者の元で行う稽古です。しっかりとした基本、正確な極めのある技術を身につけ、精神を高め、人として向上していただきたいと思います。

日本空手協会　小田原支部　指導部

―武道（柔道・空手・剣道）で精神を鍛錬し強くなるための情報、Another Info空手における出稽古のマナーとは？、杉並空手道クラブ聖基館ブログ…等を参照、改変―